

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397200078		
法人名	社会福祉法人 貞徳会		
事業所名	ガーデンホーム赤目(西ユニット)		
所在地	愛知県愛西市赤目町山之神80		
自己評価作成日	H30年1月4日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2397200078-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2397200078-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年3月5日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの周りには田園風景が広がりどかな所である。広い土地と環境を活かし玄関前には石庭や花壇、裏にはデッキスペースを持ち、職員と利用者が一緒に菜園等を作っている。ピザ窯も手作りであり、昼食やおやつ作りに利用している。近くに事業所の本部があり、お互いの慰問やボランティア行事を通じてこまめに交流を持つことで地域との深まりを最大限持てるよう努めている。又、各居室にトイレ、洗面所が設置されており、プライバシーや衛生面等の配慮が確保されている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム内のリビングは、天井が高く、広い空間が確保されてある。リビング以外にも利用者が寛ぐことができるスペースが確保されてあることで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。ホームの毎朝の日課として、ホーム内に設けられている大きな文壇の前に利用者が集まって、お経を聞く時間を設ける取り組みが行われており、日常生活のメリハリにもつながっている。外出支援については、日常的な外出の他にも、年間を通じて外出の機会をつくっており、関連の特養で行事が行われる際には、ホームからも利用者に参加したり、ホーム単独でも様々な場所への外出行事が行われている。また、ホームの庭には職員で作ったピザ窯が設置されており、家族との交流会等の際には、ピザ窯を活用した行事食の取り組みが行われており、利用者の楽しみにもつながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念以外にもホーム職員で話し合っており、みんなの思いを詰め込んだ理念を作っており、一丸となって取り組んでいる。	法人の「ノーマライゼーション」の基本理念に基づく、ホーム独自の理念(目標)をつくっており、ホーム内への掲示が行われている。利用者、職員にとって、ホームにおいて良かったと思えるような支援を目指した内容となっている。	理念は職員の目指すべき目標でもある。職員でつくったホーム独自の理念(目標)について、職員間での振り返りの取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	慰問やボランティアの受け入れにも力をいれている。	地域の方との交流については、母体の特養を通じて行われており、夏祭り、保育園、小学校との交流会にホームからも参加している。また、ホームでも独自にボランティアの方との交流の取り組みが行われている。	ホーム独自の地域の方との交流の取り組みについては、ホームの継続的なテーマでもある。交流スペースの活用も含め、地域の方との交流の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の場を利用している。又、外部の来訪時や慰問、ボランティアの方にも事業所の説明や認知症についての理解もわかっていたらよい会話をする時間を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況や活動内容を報告し、その際頂いたご意見等は、議事録に記載して全スタッフで周知できるように努めている。	会議の際には、複数の地域の方の参加が得られていることで、地域の方との交流の機会にもつながっている。また、市職員の参加も得られていることで、ホームの運営状況の報告や不明点の確認にもつながっている。	家族については、複数の方にも案内を行ったこともあるが、現状は1名の方に出席をお願いしている。今後に向けて、複数の方の出席が得られるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に参加して頂いている。又、ホームで起きた事故についてもすぐに報告し、連携に努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会の際には、ホームからも参加しており、情報交換等につなげている。また、法人を通じた地域包括支援センター等との情報交換も行われており、ホームの運営にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設での身体拘束は禁止しており、夜間以外は玄関の施錠もしていない。又、定期的に身体拘束についての研修に参加したり、ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話をしている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内には施錠を行っておらず、状況に合わせて利用者と一緒に外に出る等、職員間で連携した対応が行われている。また、法人で研修会が行われており、利用者への対応等、職員の振り返りも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての研修会に参加している。又、ストレスチェックを定期的に行うことで、早期に職員のストレスが理解でき対処できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要性のある関係者との話し合いはもちろん、カンファレンスやミーティングの時間を使い、職員にも説明し理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書をご家族に説明しながら、疑問点等ないか確認し、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置し、多くの意見が収集できるよう努め、利用者やご家族の意見等運営推進会議の場を利用してお話して頂いている。	年2回の家族会が開催されており、家族との交流が行われている。家族からの要望等は、法人の第三者委員の明示の他にも、管理者、リーダーで対応する体制がつけられている。また、毎月発行されているホーム便りには、利用者毎の報告も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見は否定せず、できるだけ運営に反映できるように努めている。	毎月のユニット会議が行われており、職員から出された意見等はリーダーが把握し、管理者・リーダーとの随時の意見交換を経て、運営への反映につなげている。また、法人代表者も昼食を通じてホームに訪問しており、職員の把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	できるだけこまめに職員との会話をする時間を持ち、やりがいが見いだせるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	一人ひとりの力量を把握して必要と思われる研修や勉強会に参加できるようにしている。又、理解できている職員との勤務をすることで力量が発揮できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内の勉強会の時間を作っており交流が図れるようにしている。又、外部への研修にも進んで参加することでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面接時にアセスメントを行い、情報を共有しながら良好な関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の面接時にご家族やご本人の要望や困っている事等をしっかり聞き取り、できる限り要望に応えられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時の聞き取り以外にもアセスメントシートを活用することで、必要と思われるサービスを見極め実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分でできることはしてもらい、できないことは手伝いながら支えられる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	何かあればご家族とも話し、ご本人やご家族にとって一番良い方法を探しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々、お友達等が来訪されたり、本部で行われる行事に参加した時には、以前グループホームに入居されていた方等とお話することもある。	利用者との入居前からの関係継続については、徐々に困難になっているが、利用者の中には電話等での交流が行われている。また、家族との受診等を通じた食事や買い物の機会や、自宅に戻り家族と過ごす等、関係継続に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	作業やレク活動にて、利用者様同士関わり合い支え合えるように努めている。利用者様同士トラブルにならないよう時には仲介に入り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族にはいつでも相談にのることを伝えている。又、来訪された際は今の状態をお聞きして、安心できるような会話作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	話を傾聴しその都度できることは対応している。困難な場合は、職員全体で意見交換して話し合っ検討している。	職員間で利用者を担当しながら把握が行われており、毎月の利用者毎の報告の作成等、意向等の把握につなげている。また、介護計画の見直しに合わせたカンファレンスを実施し、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に生活歴等をご家族にお聞きし、ご利用者様のお話も聞きながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送り等もしながら全スタッフで把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族、職員の意見を反映しケアプランを作成している。	介護計画は6か月での見直しが行われており、モニタリングについては3か月毎に担当者も関わりながら実施している。また、「iPad」を活用した介護記録を残す際には、画面に介護計画の内容も表示されることで、日常の記録への反映にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録を残し、3ヶ月に1回モニタリングをしてケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別の要望にもできる限り応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパー、喫茶店、外食、行楽行事等ご本人の意向をもとに資源の活用をしたり、月に2回本部で行われているいきいきサロンに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	嘱託医の往診が定期的であり、必要時には上申し、指示にて対応している。又、ご家族の希望にて以前からの主治医との連携も保っている。	協力医による定期的な訪問診療と受診支援の対応が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医の継続が行われている。家族による受診の際には、ホームからの情報提供が行われている。また、関連の特養の看護師による支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者の体調不良時や事故などがあった場合には、同法人内の看護師にすぐに報告、相談して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にも介護サマリーを用意することで日常の様子やケアを伝えている。また退院についてもムンテラに参加することでご本人やご家族が安心できるよう医療との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの支援はしていないが、ご家族との話し合いを行い、できる限りの支援に努めながら本部看護師、嘱託医に協力を得ている。	ホーム単独での看取り支援を行わない方針を家族にも説明しており、身体状態に合わせた話し合いを行いながら、医療機関等への移行支援が行われている。関連の特養とも連携した対応を行いながら、利用者の状況に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応マニュアルがあり、いつでも見られるようになってきている。本部での研修にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害の避難訓練を消防士立会いのもと行われている。訓練に参加出来ない時は、資料をみて確認したり、他の職員にどのように行ったか内容を共有するようにしている。	年3回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。訓練の際には消防署の協力も得られており、助言等が得られている。また、水害を想定した建物の2階に上がる訓練の実施や、特養と連携した備蓄品の確保も行われている。	地域の方との連携については、ホームの継続したテーマでもある。非常災害時には関連の特養とも連携しながら、ホームでも協力できる内容の検討等の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格をふまえ、入浴やトイレ介助時にプライバシーに配慮して声掛けや介助に努めている。	ホームの理念(目標)に利用者本位で考えること明示しており、職員が日常的に振り返りながら、言葉遣い等への対応や注意喚起等の取り組みにつなげている。また、法人で接遇に関する研修会が実施され、ホームからも職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	アドバイスをしながら、ご本人の思いを尊重し、対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースに合わせ、希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に散髪したり、服装のみだれや汚れはないか配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきやスライス、後片付け等、利用者様のできることは、手伝って頂いている。	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好にも配慮している。調理や片付けの際には、利用者も参加する取り組みが行われている。庭に大きなピザ窯があり、行事食の取り組みが行われている。また、食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分量を記録に残し、制限のある利用者様には、主食を量り提供している。又、食事摂取量が少ない時には、経腸栄養剤を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝、夕に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。必要な方は、歯科往診をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の回数や量を記録し、その方に合った間隔でトイレのお声掛けや援助を行っている。	利用者の身体状態等にも合わせた排泄記録を残しており、「iPad」で情報を共有する取り組みが行われている。居室にトイレが設置されていることで、職員間でベッドとトイレの位置を検討し、夜間もトイレで排泄できるような取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳やヨーグルトを提供したり、個別に食物繊維を使用したりしている。運動やマッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日、時間帯はある程度決まっているも自分のペースで入浴されている。入浴剤を入れたり、個別のボディークリームやシャンプーを使用している。	週3回の入浴が行われており、時間は午前と午後に行われている。リフトの設置が行われており、重度の方も浴槽で入浴している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の他にも、外出先の温泉施設の足湯を楽しむ取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分のペースで休息されている。ご本人の希望に応じて部屋の暖房の温度調節をしたり、湯たんぽを入れる等して気持ちよく休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のケースに最新の薬情を入れて、変更があった時には申し送りノートに記入し、追加された場合等は、ご本人の状態を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々が得意としていること、その人に合った役割や楽しみなどを理解し支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩等日頃より出たい時に行けるように対応している。レクリエーションにて外出会等も企画している。	ホームが開放的であることで、利用者が日常的に散歩に出かけたり、近隣にある関連の特養に出かける取り組みが行われている。年間を通じて外出の機会をつくっており、季節に合わせた外出や県外の公園に出かける取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人にはホームでお預りしているお金がある事を伝えており、一人ひとりの希望時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。毎年、ご家族に手作り年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットの扉は開放し圧迫感を感じないように配慮している。リビングや玄関は季節感を取り入れた飾りつけをしている。清掃箇所を職員で分担したり、気付いた時に清潔保持に努めている。換気やエアコンの温度にも気をつけている。	ホーム内は広く、天井も高いことで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮が行われている。庭も広いことで、利用者が季節を感じる事ができる。また、リビングの壁には季節感のある飾りや利用者の作品の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内にはテーブル席やソファを用意しており、好きな場所で過ごせるようにしている。又、玄関フロアにもベンチを置き、外を眺めながらゆっくりできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドとタンスが設置されているが、他に持ち込みの制限はしていない。写真や小物などを置いたりしている。	居室にはタンスが備え付けとなっていることで、持ち込みの少ない方もいるが、利用者の中には様々な好みの物や趣味の物の持ち込みが行われている。また、ベッドも備え付けとなっていることで、現状は、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の扉の横に表札を作り、浴室の扉にはゆののれんを下げることでわかりやすいよう配慮している。		